

K字回復に配慮 一律要請せず

賃上げ「3%超期待」 着地探った政権

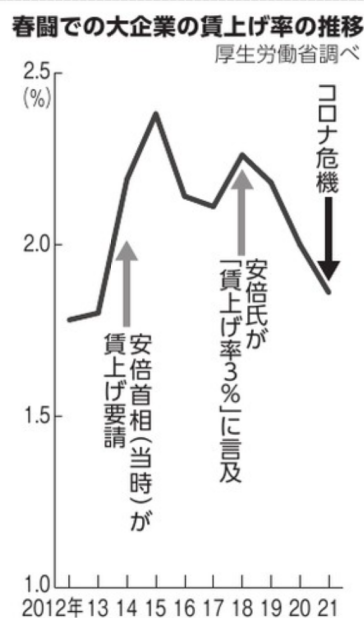
岸田文雄首相が春闘での「3%超の賃上げ」に期待を表明した。数値目標への言及は安倍政権以来だ。民間企業の賃金アップは政権が目指す「成長と分配の好循環」の中核になる。ただ、業績の明暗が分かれる「K字回復」の現実があり、一律での要請は見送った。▼3面参照

首相が財界に賃上げを促す文言は、政府内で直前まで決まらなかった。



一律の賃上げ要請が難しい理由は…

政府関係者によると、「要請する」と「期待する」の2案があり、経団連などの調整に時間がかかった。具体的な数値目標については、会議前日まで「首相のあいさつ文の案に3%という数字は入っていない」という。コロナ下で業績が回復している企業とそうでない企業との二極化が進むなか、安倍政権時のように一律に数値目標を掲げて要請する



のは難しいとの判断があった。「実行する姿をみせる」(官邸幹部)ことを優先したい政権は、前向きに見える落としどころを探っていた。

結果的に、業績堅調な企業に限り、「期待」を示すことに落ち着いた。政府高官は「業績がよいところはやってもいい、厳しいところ

財界側には安堵感

政権側は賃上げ目標はあくまで「期待」で、「官製春闘ではない」と強調する。一律の賃上げ要請が見送られ、財界側には安堵感がたがった。 「3%超」の目標について経団連の十倉雅和会長は「期待として受け止めたい」と述べた。

経団連は、世界的な「脱炭素化」の流れを強調する。産業構造の転換を迫られ、今の賃金体系を前提にその底上げをはかるベース

アップは、日本型雇用の変

るは無理だという話だ」と解説する。

それだけに好調な企業への期待は、いつも以上に大きい。政府関係者は「3%と言ったら3%で止まる。それ以上の賃上げを総理は期待している」と話す。

政府は、保育士などの公的分野での賃上げに取り組む一方、民間企業の賃上げは環境整備を進める姿勢を強調する。その柱が、企業の賃上げを促す優遇税制の拡充だ。この日はさらに、優遇税制の効果が出にくい赤字の中小企業が賃上げをした場合、補助金の助成率を引き上げる考えも示した。(坂本純也、山本恭介)

革を目指す経済界の考えと相いれなくなってきた。ただ、経団連も「持続可能な資本主義」への転換を掲げ、賃金を上げていく方針自体には肯定的だ。幹部は「経済界の機運醸成が我々の仕事だ」と話す。

一方、労働側の受け止めはやや複雑だ。連合幹部は26日、「政府に言われるまでもなく、4%以上の賃上げ率を掲げて取り組んでいる」と話した。

安倍政権が賃上げを求め

た14年以降、春闘での賃上げ率は2%台にのったが、コロナ禍が襲った前回は1%台に失速。感染がいったん落ち着き、人材不足感も強まってきたため、連合も「賃上げの好機」とみる。政府のかけ声で賃上げが促されることに、連合内では「実を取ればいい」(幹部)との受け止めもある。ただ、先導役を奪われるこ

とになれば、労働運動の存在感が薄まりかねない。立教大の首藤若菜教授は「官製春闘と評されるものの、賃上げが実現するかどうかは労使交渉次第だ。首相の賃上げ期待は労組にとって強いアシストになる。うまく利用しながら賃金を上げていくしかない」と話す。

(伊藤弘毅、藤崎麻里)